

ポストコロナの時代に向けて精神科作業療法を展望する

わが国の作業療法士が国家資格となって今年で 60 年です。「閉鎖的・画一的・強制的」といった言葉で示されるような、精神科医療の「負の遺産」との格闘から始まった精神科作業療法ですが、現在では次第に認知度が上がり、資格者も増加しています。医学モデルと地域モデルの接合役として院内作業療法からデイケアへ、そして地域支援の現場での活動など役割を拡大しながら、対象者ひとり一人の生活に役立てられるような作業療法の実践が希求されてきたといえるでしょう。

しかし、2020 年の新型コロナの感染拡大による緊急事態宣言の発令を契機にして、私たちはまたしても「古くて新しい問題」に直面することになりました。病棟から地域に展開する作業活動は、「不要・不急」のものと扱われて中止や縮小となったり、外来と入院の対象者の交流が禁じられたままになるなど、「画一的・管理的」な環境での作業療法が、コロナ後の現在も続けられている現実があるのです。コロナ禍がもたらした影響は他にも多岐にわたっています。私たちの臨床実践はその時々時代のあり方と無縁ではられません。

今回の研修会では、わが国の精神科作業療法の第一人者として先駆的な役割を果たされてきた富岡詔子氏を特別ゲストとしてお迎えします。そして、現在のポストコロナ期の作業療法は、以前のプレコロナ期の作業療法やコロナ期の作業療法とどう違ってきたのか、それらを振り返り点検するとともに、今後の作業療法をどのようにすればいいのかを展望し、私たちの時代の立ち位置について考える機会にしたいと思います。

【日 時】2025(令和7)年

第1部：10月25日(土) 14:00～17:30 開場：13:30

第2部：10月26日(日) 9:00～12:00 開場：8:45

【会 場】現地対面とWEBによるハイブリッド開催

対面参加：山形テルサ 3F 会議室

(山形市双葉町1丁目2番3号)

・JR山形駅西口より徒歩5分

・駐車は施設横に県民駐車場あり(有料)

WEB参加：ZOOM システムを使用

(開催日3日前までにZOOM情報をご案内します)

【定 員】第1部：60名(会場30名) 第2部：30名

【参加費】

第1部 会員：2000円 非会員：2500円 学生：500円

第2部 会員：2000円 非会員：2500円 学生：不可

通し 会員：3000円 非会員：4000円

【申込方法】

当会HPか以下のURL・QRコードから必要事項を記入してお申込みください。

<https://forms.gle/M44RjRtmS2Ai9xz28>



【申込〆切】2025年10月10日(金) 18:00まで

【振込〆切】2025年10月17日(金) 18:00まで

※参加費振込方法は申し込み受付後メールでお知らせします。

【問い合わせ先】

臨床精神科作業療法研究会事務局 稲毛義憲

TEL:090-6629-1910 FAX:023-634-5872

メール：rinsei-ot-ken@hat.hi-ho.ne.jp

プログラム

第1部：10月25日(土) 14:00～17:30

■シンポジウム：14:00～16:00

ポストコロナの時代に向けて精神科作業療法を展望する

座長：鈴木 扶希(東北福祉大学せんだんホスピタル)

「“コロナ”は私たちに何をもたらしたか? ～私たちの臨床を再考する～」

松坂 伸行(共同座長)(医療法人恵愛会 青木病院)

「地域で生活する方に寄り添う ～訪問支援での関わりを通して～」

谷口 文香(ほしのマロニエこころのクリニック)

「コロナ騒動後遺症?! ～なんか議論するのつかれちゃった～」

熊谷 幹生(二本松会かみのやま病院 デイケアむづれば)

「コロナを越えて変わったこと～教育の立場から～」

春山 佳代(医療創生大学)

■鼎 談：16:15～17:30

富岡 詔子(信州大学 名誉教授)

青山 宏(臨床精神科作業療法研究会 代表)

香山 明美(東北文化学園大学 教授)

※第1部終了後、会場付近にて懇親会を企画しています。18:30～

第2部：10月26日(日) 9:00～12:00

■公開事例検討会

事例テーマ「Aさんの確かな事を創造する」

事例提供者：狐塚 辰朗(医療法人財団大利根会 榛名病院)

司 会：稲毛 義憲(臨床精神科作業療法研究会)

助 言 者：富岡 詔子(信州大学 名誉教授)

以上